東京外国語大学オープンアカデミー教養講座
「言葉とその周辺をきわめる」第4回（2015/10/27）
於東京外国語大学本郷サテライト

ハングル，その成立をさぐる

趙 義 成（東京外国語大学大学院准教授）
choes@tufs.ac.jp

0. はじめに

本稿は朝鮮の文字であるハングルの成立の様相を見ることで，ハングルにひそむ当時の人の思想と知識を知り，朝鮮の文化を垣間見ようとするものである。

1. ハングル以前の朝鮮半島の文字生活

朝鮮(1)はいわゆる漢字文化圏である。中国と陸続きである朝鮮半島は，比較的早い時期から漢字文化を受け入れ，朝鮮半島に漢の四郡が設置された紀元前２世紀ごろには，すでに朝鮮半島に漢字文化がもたらされていたものと推測される。

朝鮮半島においてはもともと土着の言語を表記する手段がなかった。したがって，朝鮮半島に導入された漢字も初めはもっぱら漢文を記すために用いられたと見られる。しかし，時代が下ると漢字を借りて自らの言語を書き表す方法（借字表記法）が試みられた。

1.1. 吏読（りとう，りと）

吏読は朝鮮語(2)の語順に従って文が綴られるが，名詞や動詞などの実質的な部分は漢語で書かれ，助詞などの文法的な部分は漢字表記された朝鮮固有語(3)で書かれた表記法である。三国時代（５世紀半～６世紀頃？）に成立し，その後李氏朝鮮王朝時代に至るまで脈々と伝えられてきた。「吏読」の名称は胥吏（下級役人）の行政文書といった公文などでしばしば用いられたためであり，吏道，吏吐などとも称される。

1.2. 郷札（きょうさつ）

郷札は古代朝鮮の詩歌である郷歌を表記するのに主として用いられた表記法である。日本の万葉仮名(4)に似た性質のものであり，当時の言語をほぼ完全に表記したものと推測される。しかしながら，現存する郷歌が25首しかないため，いまだ十分に解読されていない。

---

(1) 本稿では，民族総体について，これ以降「朝鮮」の呼称を用いることにする。
(2)「韓国語」はまた「朝鮮語」とも呼ばれる。いずれの名称で呼ばれても，指し示す言語は同一のものである。脚注(1)に従い，本稿では朝鮮半島の言語をこれ以降「朝鮮語」と称することにする。
(3) 朝鮮語に古くからある固有の語彙。日本語の和語に相当する。
(4) 平仮名・片仮名が成立する以前，日本語は全て漢字によって表記された。その表記法は，古代日本の歌集である万葉集（8 世紀ごろ）において用いられたため「万葉仮名」と呼ばれる。例えば「しほさゐに（しおさいに）」を「潮左為二」と表記する。

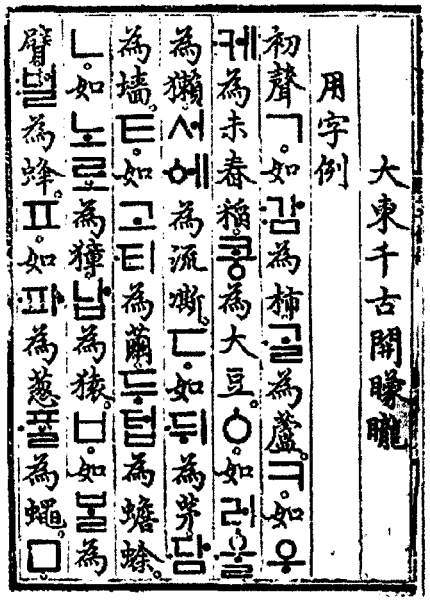
1.3. 口訣（こうけつ，くけつ）

漢文を読む際に漢文の途中に挿入する朝鮮語の助詞類。「吐」とも呼ばれる。日本における漢文の送り仮名に相当する。口訣はもともと漢字（正字）を用いていたが，時代が下るにつれて漢字の略体が用いられるようになる。その字形は片仮名に似るものもある。口訣・片仮名ともに漢文読解の補助として成立したこと，後に漢字の略体が用いられるようになったことなど，その性質が極めて似ており非常に興味深い。

2. ハングルの創製

2.1. 『訓民正音』の創製と頒布

借字表記法は，いずれも朝鮮語を完全な形で表記するには不十分であった。このような中，政治的に安定し文化的に充実した李氏朝鮮王朝の世宗の治世（1418～1450）において，新たな文字が作られることになる。世宗は1443年陰暦12月に新文字を完成させ(5)，その文字を1446年陰暦9月上旬に「訓民正音」の名で頒布した。それまで漢字を用いて断片的・暗示的に示されてきた朝鮮語は，この訓民正音の創製により初めてその明確な全体像を現したのである。



【図1】訓民正音解例本（潤松文庫本）

この新たな文字の頒布は，文字名と同名の書籍『訓民正音』を世に送り出す形で行なわれた。この書物は本編とともに，世宗が集賢殿(6)に集う学者らに命じて作らせた解説書である「解例」が附されていることから，一般に「解例本」と称される。解例本は全編が漢文によって書かれている。現存する確かな原刊本は1940年に慶尚北道で発見されたものである（【図1】参照）。(7)

ハングルが世宗１人の手によって作られたのか否かについては，議論の余地がある部分である。しかしながら，さまざまな歴史的な公文書等の記述を見る限り，ハングルは「親制（国王自らが制作）」したという記述しかなく，世宗が臣下と共同作業を行なって文字を作った形跡は見られない。(8)

---

(5) 『世宗実録』1443年12月の条に「上，是の月親しく諺文二十八字を制す。（中略）是れ訓民正音と謂う」という記述があることから，当初は「諺文（おんもん）」と呼ばれていたようである。「諺」とは話し言葉のことであり，「諺文」とは「話し言葉を表す文字」という意味の名称である。

(6) 李氏朝鮮初期に設置された学問研究のための官庁。集賢殿という官庁名は高麗時代から見られるが，高麗末期からは官庁の統廃合などにより有名無実化し廃止されていた。それを 1420 年に世宗が人材の養成のために復活させた。

(7) この本は1962年に韓国国宝70号に指定され，1997年にユネスコの「世界の記録」に登録された。

(8) ただそ，世宗が周囲の臣下に対し非公式に諮問したりして意見を聞いたことは十分に考えられる。また，一部の書籍には，世宗が「解例」を書いた集賢殿の学者を取りこんで集賢殿内にフラクション（組織内派閥）を作り，「正音革命派」なるものを形成したという話があるが，そのような歴史事実は一切確認されず，「革命」自体が荒唐無稽な作り話と見て差し支えない。

解例本の構成は以下の通りである。（　）内は原文に現れない名称である。

（本編）

・（御製序）：世宗による序文。文字創製の理由を説明。

・（例義）：各字母(9)の説明と文字の使用法の説明。

解例

・制字解：制字原理の解説，陰陽五行に基づく音の分類と分析。

・初声解：初声(10)についての説明。

・中声解：中声についての説明。

・終声解：終声についての説明と終声字の運用法の説明。

・合字解：字母を組み合わせて１文字を作ることについての説明。

・用字例：用例集。合計94の単語が収録されている。

・（鄭麟趾序）：鄭麟趾による序文。文字創製の背景解説，解例の編纂にたずさわった集賢殿の学者の名前などが記されている。

このようにハングルは，文字を作った理由，原理，正確な年代，製作者の名を知ることができる。ほとんどの文字が自然発生的に生まれ，いつ誰がどのようにして作ったのか知るよしもないが，その点でハングルは世界的に見ても極めてユニークな文字である。

2.2. ハングル創製に反対する勢力

朱子学（儒学の一学派）を国是とし中国に対して事大の礼を取る李氏朝鮮王朝にあって，民族文字の創製はそのような国家の基盤を危うくするものとして異を唱える臣下もいた。例えば，集賢殿の崔万理らはハングル創製に反対する上疏文を世宗に奉じ，次のように訴えている。

> 「わが朝鮮は初代国王からこれまで，真心を尽くして大国たる中国に仕え，ひたすら中華の制度に従ってきました。〔中略〕もし（このハングルが）中国に流出して，（正しくないと）そしる者がいたら，大国に仕え中華を慕うのに恥ずかしくはありませんか。〔中略〕昔から中国の各地域は風土が異なるとはいえ，方言に基づいて漢字を別途に作ったためしがありません。モンゴル・西夏・女真・日本・チベットなどだけはそれぞれ文字を持っていますが，これらはみな未開人の所業であり，言うに足るものではありません。」〈原文は漢文〉

当時の状況を考えれば，このような考え方が知識人の常識であったはずであろうことは想像に難くない。だが，世宗はこのような時代的状況の中であえてハングルを創製したのである。

---

(9) ハングル１文字を構成する個々のパーツを字母という。原則として１つの字母は１つの音を表す。

(10) 音節頭に現れる子音を朝鮮語学では伝統的に「初声」，母音（半母音を含む）を「中声」，音節末に現れる子音を「終声」と呼ぶ。

3. ハングルの製字原理と製字思想

3.1. 子音字母の製字原理と製字思想

ハングルの子音字は「象形」の原理に基づき，発音器官を模式化して作られた。まず牙音字(11)「ㄱ」，舌音字「ㄴ」，唇音字「ㅁ」，歯音字「ㅅ」，喉音字「ㅇ」を基本字形としてまず定め，これに「加画」の原理で他の字を作っている（【表1】参照）。

【表1】子音字母の加画と異体

五音	象形の原理	基本字形	加画	異体	異
牙音	舌根が喉を閉ざす形	ㄱ[k/g]	ㅋ[k^h]		ㆁ[ŋ]
舌音	舌が上あごに付く形	ㄴ[n]	ㄷ[t/d] ㅌ[t^h]	ㄹ[r/l]	
唇音	口の形	ㅁ[m]	ㅂ[p/b] ㅍ[p^h]		
歯音	歯の形	ㅅ[s]	ㅈ[ts/dz] ㅊ[ts^h]	ㅿ[z]	
喉音	喉の形	ㅇ[ɦ]	ㆆ[ʔ] ㅎ[h]		

このように，子音字母はわずか５つの基本字形を基にして全ての字母が整然と作られている。さらに，５つの基本字形が発音器官をかたどっているという点が非常に特異である。「舌根が喉を閉ざす形をかたどる」のような記述を見ると，15世紀の朝鮮の学者が個々の言語音をどのようにして出しているのか，きちんと分析し把握していたことが伺える。牙音・舌音・唇音・歯音・喉音といった子音分類法は，中国音韻学(12)の手法を取り入れたものである。訓民正音は中国音韻学の深い理解のもとに，その理論を最大限に活用して作られている。

子音を５つに分類するのは，もともと五行説に基づくものである。五行説とは森羅万象は木・火・土・金・水の５つの要素から成り立ち，それら５要素の盛衰によって万物が生成変化するという考え方である。この考え方に従い，中国音韻学では言語音を五音として分類した。訓民正音解例においても，子音を五音に分類し，併せて五行との関係を以下のように説明している。

【表2】子音と五行との関係についての説明

五音	音の性質	五行	声の様相および五行との関係	時	音
喉音	深くて潤っている	水	うつろで通っていて，水が透き通って明るく流れるのに似る	冬	羽
牙音	かみ合って長い	木	喉音に似るが中味が詰まっており，木が水から生じて形があるのに似る	春	角
舌音	鋭くて動く	火	揺らめいて揚がり，火が揺らめいて高く揚がるのに似る	夏	徵
歯音	硬くて物を断ち切る	金	細やかで滞り，金が細やかで鍛錬されてできあがるのに似る	秋	商
唇音	四角くて合わさる	土	含みがあって広く，土が万物を含んで広大であるのに似る）	季夏	宮

(11) 牙音・舌音・唇音・歯音・喉音は五音といい，もともと中国音韻学における子音の分類である。
(12) 漢字の発音に関する中国の伝統的な学問を中国音韻学という。

3.2. 母音字母の製字原理と製字思想

母音字母は「・」[ʌ]，「ㅡ」[ɨ]，「ㅣ」[i] の３字母を基本とし，他の字母はこれらを組み合わせて作った。例えば，「ㅗ」[o] は「・」と「ㅡ」の組合せ，「ㅏ」[a] は「ㅣ」と「・」の組合せである．「ㅗ，ㅏ，ㅜ，ㅓ」の字形は，現代では「ㅗ，ㅏ，ㅜ，ㅓ」のように長短２つの棒を組み合わせて作られているが，文字創製当初は棒と点の組合せであった。

15世紀の朝鮮語には単母音が７個ある。解例本では３つの基本となる母音に関し，舌の様子により「舌縮（舌が縮む）」，「舌小縮（舌がやや縮む）」，「舌不縮（舌が縮まない）」に分類し，その他の母音については口の開き具合により「口蹙（こうしゅく）（口がすぼまる）」と「口張（口が開く）」を区分している。

【表3】単母音字

口蹙	（再生）	ㅛ [jo]	ㅠ [ju]	
	（初生）	ㅗ [o]	ㅜ [u]	
≪基本字母≫		・ [ʌ] 舌縮	ㅡ [ɨ] 舌小縮	ㅣ [i] 舌不縮
口張	（初生）	ㅏ [a]	ㅓ [ə]	
	（再生）	ㅑ [ja]	ㅕ [jə]	

３つの基本となる母音字母「・，ㅡ，ㅣ」は，それぞれ天，地，人を表している。この天地人は「三才（さんさい）」と呼ばれる。中国の世界観では，初めに天が生じ，次に地が生じ，最後に人が生まれたと考えられている。天は陽であり，地は陰であるので，天を表す「・」およびその同類の「ㅏ，ㅗ」は陽母音，地を表す「ㅡ」およびその同類の「ㅓ，ㅜ」は陰母音とされる(13)。これは陰陽説に基づき，母音を分類しているものである。

このように，ハングルは言語理論的には中国音韻学に基づき，思想的には五行・三才・陰陽といった伝統的な概念を用いて文字が説明されている。五行・三才・陰陽などの概念はいずれも朱子学と密接な関係がある。ハングルに込められた世界観は，李氏朝鮮の国是である朱子学そのものと言ってもよい。ハングルは中国音韻学と朱子学を両輪として成り立っているといえる。

4. ハングルの実用

このようにして人の手によって意図的に作成され世に送り出されたハングルは，その後さまざまな手段により世に広まっていった。以下に書物として刊行されたもの，人の手で書写されたものについて，その後の実用の歴史を概観する。

4.1. 出版されたハングル

1446年に『訓民正音』を頒布し以降，朝鮮王朝はこの新たな文字を活用して積極的な出

(13) これは現代の言語学で母音調和と呼ばれるものである。母音調和とは，ある言語において母音がいくつかのグループ（多くは２つのグループ）に分類され，同一単語内では同一グループの母音のみが現れる現象である。15 世紀の朝鮮語にも母音調和が存在し，２つの母音グループを陽母音，陰母音と呼んだのである。

版事業を行なった。頒布の翌年である1447年には朝鮮王朝を讃える頌歌集『竜飛御天歌』，釈迦を讃える頌歌集『月印千江之曲』，および釈迦の一代記である『釈譜詳節』が刊行される。これらのうち，『月印千江之曲』と『釈譜詳節』は金属活字（銅活字）の秀麗な書体によりによって印刷された本であり，語学のみならず文学・書誌学的にも貴重な資料である。

15～16世紀の時期には，仏典，詩歌，儒教書，実学書など多様なジャンルの書物が国家事業として多く刊行された。

4.2. 筆写されたハングル

李氏朝鮮王朝において，支配層の筆記手段は公的な漢字・漢文であった。このことはハングルが作られた以降も変わりはなく，ハングルが公式な文書を記録する手段とはなることはなかった。すなわちハングルは仮の文字であるという認識が当初からあり，そのことは「文（＝漢文）」，「真書」に対してハングルを「諺文(14)」，「諺書」と呼びならわしたことに如実に現れている。従って，ハングルは支配層の婦女子および下層民衆を中心に浸透していくことになる(15)。このような事情は日本のカナの使用状況と類似しているということができよう。【図3】は現存する最も初期の筆写本『五台山上院寺重創勧善文』(1464)である。

17世紀ごろにはハングルによる小説や日記などの文学作品も多く現れ，それらのあるものは刊本として印出され，またあるものは筆写本という形で世に出回った。文学作品としてはその他にも，時調と呼ばれる朝鮮の詩歌が知識層によって盛んに作られたが，それらはハングルによって書きとめられた。このようにして筆写されたハングルは独特の書体を生むこともあった。例えば「宮体」と呼ばれる美しい書体がそれである（【図4】参照）。このような書体はさらに洗練され，現在のハングル書芸へと発展した。

婦女子および下層民衆の実生活においては，手紙などにハングルがよく用いられた。いわゆる諺簡（ハングルによる書簡）と呼ばれるものであり，現在も資料として多く残されている。また，庶民層では漢字学習や漢籍講読のための補助としてもハングルが多く用いられた。このようにしてハングルは李氏朝鮮を通して広く流布していくことになる。

5. ハングルの誕生に関わる疑問点

5.1. 朝鮮語音を反映しないハングル

世宗はなぜ固有の文字を作ろうと考えるに至ったのか。よく言われることは，朝鮮語をそのまま文字として表記するすべを提供することが目的であったということがある。確かに解例本の世宗序には，以下のような記述がある。

> 「わが朝鮮国の語音は中国とは違って漢字と互いに通じないので，漢字の読み書きができない民は，言いたいことがあっても，その心うちを書き表すことのできない者が

(14) ここでの「諺」は「俗語」すなわち朝鮮語を表す。「諺文」は日本語で慣用的に「オンモン」と呼ばれるが，これは「諺文」の朝鮮語読みである「オンムン（언문）」に由来する。

(15) イザベラ・バードが19世紀末に旅行した紀行文『朝鮮紀行』に「諺文は軽蔑され，知識階級では書きことばとして使用しない。とはいえ，わたしの観察したところでは，漢江沿いに住む下層階級の男たちの大多数はこの国固有の文字が読める」（バード 1998:111）とある。

多い。私・世宗はこれを憐れに思い，新たに二十八字を作った。人々が簡単に習い，日々用いるのに便利なようにさせたいだけである。」〈原文は漢文〉

しかし，『訓民正音』の解例本をつぶさに見ていくと，短絡的にそのように言うことのできない，いくつかの不可解な事実に突き当たる。

まず第１点目に，ハングル字母とその音を示すのに，朝鮮漢字音(16)を用いている点である。もしハングルが一義的に朝鮮語音を示すために作られたのであれば，朝鮮語の単語を用いて音を示せばよいのに，そのようにはしていない。

２点目に，音を示すのに用いている朝鮮漢字音が，当時の学者が人工的に作り出した「この世のものでない」漢字音であった点である。もし漢字音を用いるのであれば，当時実際に朝鮮語の中で使われていた現実の漢字音を示せばよいであろう。

３点目に，子音字母のうち喉音字「ㆆ」[ʔ] は，当時の朝鮮語にない音（正確には「区別されない音」）を表す文字である。換言すると，この字母は朝鮮語の表記には不要な文字である(17)。その一方で，当時朝鮮語のあった両唇摩擦音の [β] という子音にもかかわらず，この音を表す字母が一時的に作られておらず，「ㅂ」と「ㅇ」の字を合成し「ㅱ」という字によってこの子音を表すという二度手間な方法を用いている。もしハングルが朝鮮語の表記のためだけに作られたのであれば，朝鮮語にない発音を表す文字を作ったり，逆に朝鮮語にある発音を表す文字を作らなかったりするのは，明らかに不自然なことである。

【表3】音を示すのに解例本で用いられている漢字とその発音

発音	ハングル	表音用漢字	解例本での漢字音	15世紀の実際の漢字音
ʔt	ㄸ	覃	땀 [ʔtam]	담 [tam]
ŋ	ㆁ	業	업 [ŋəp]	업 [əp]
p	ㅂ	彆	별 [pjət]	별 [pjəl]
h	ㅎ	洪	홍 [ʔhoŋ]	홍 [hoŋ]

このような不可解な事柄の原因は，結論からいうと，ハングルの文字体系は一義的に朝鮮語を表記するために朝鮮語音に合わせて作られたのではなく，漢字音を表記するために漢字音に合わせて作られているのである。では，なぜ朝鮮語音でなく漢字音に焦点を当てて文字が作られたのか。

5.2. 朱子学とハングルの深い関係

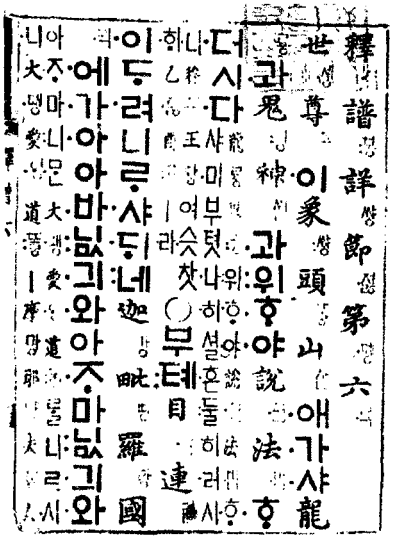
３章で見たように，ハングルの制字原理には朱子学が深く関与している。しかし，ハングルと朱子学の関係は制字原理だけには留まらず，ハングルという文字の誕生そのものと関わっている。朱子学では人間の言語音や音楽の音階が正しく整うことが，すなわち正しく整った理想政治につながると考えられていた。乱れた言葉の発音を正しい姿に整備する

(16) 漢字音とは，漢字が本来もっている発音である。したがって，朝鮮漢字音とは，平たく言えば朝鮮語における漢字の音読みである。

(17) 実際に当時の文献では，ごく一部の特殊な場合を除き，この文字は用いられない。

ためには，正しい音を示すための文字が必要であった。そして，ここでの「言葉の発音」とは，朝鮮語音ではなく漢字音を念頭に入れていたようである。朱子学という中国の思想を国是とし，事大主義をよしとする当時の朝鮮にあって，（文化的な）言葉とはすなわち漢語であったからである。

当時の学者（学者はすなわち政治家でもあった）たちは，とりわけ朝鮮漢字音が本来の中国の発音からずれていることを知っていて，漢字音を「本来の正しい発音」に直そうとした。世宗は上疏を提出した崔万理に対し「漢字の音の種類を知っているか。私が韻書（漢字の発音書）の誤りを正さなかったら誰が正すのか。」と叱っている。このような点からも，「言語音を正す」というのが「漢字音を正す」ことであったのが分かる(18)。



【図2】『釈譜詳節 第六』（国立中央図書館所蔵本）1447年刊行。それぞれの漢字のすぐ下に書かれたハングルが東国正韻方式の漢字音表記

世宗は1443年12月のハングル完成後の1444年2月に，ハングルを用いた最初の事業として，韻書である『古今韻会挙要』にハングルで発音を示す作業を命じた。この事業は，人工的な漢字音の一覧である『東国正韻』の編纂に引き継がれ1447年9月に完成する。『東国正韻』で示された人工的な漢字音は，最初期のほとんど全てのハングル文献の漢字音表記に用いられており，世宗がいかに真剣に漢字音をただそうとしたのか，その意気込みを知ることができる（【図2】参照）。

そして，さらに「訓民正音」という文字の名称も考慮する必要がある。「訓民正音」は「民を訓（おし）える正しい音」の意である。文字の名称であるのに「正しい字」ではなく「正しい音」と名付けられている。ハングルの創製には，朱子学的な立場から音を正し，民を正しい方向に訓え導き，理想政治を実現しようという意図があったのである。

5.3. ハングルはなぜ１文字１音節か

ハングルは１字母が１音を表すいわばアルファベットであるが，西欧のアルファベットのように横１列（あるいは縦１列）に並べて書くのではなく，１音節ごとに字母を集めて１文字化するのが特徴的である。例えば，[hangul] という音をハングルで表記するとき，「ㅎㅏㄴㄱㅡㄹ」のようには書かず，「한글」のように書く。当時東アジアに存在していた表音文字は，モンゴル文字，パスパ文字，チベット文字など，いずれも字母を線状に並べて表記したのに，なぜハングルはそのようなシステムにせず，１音節１文字の「２段構え」

(18) なお，「漢字音を正す」というのは，朝鮮漢字音を当時の中国語音に直すということではない。中国音韻学では隋唐時代の音が伝統的に正統な音と考えられており，そのような古い中国語音に似せて朝鮮漢字音を作り変えようとした（古い中国語音をそのまま持ち込もうとしたのではない）のである。

の構造にしたのか。

その理由は，この文字が「正しい漢字音を示す」という朱子学的な目的で作られたことに関係がある。漢字は表意文字ではあるが，１文字が示す音は１音節である。ハングルで漢字音を示そうと思ったら，漢字に合わせて１音節を１文字で表した方が都合がよい。そのために，ハングルは字母を線状に並べて書くのではなく，音節ごとにまとめて１文字にしているのである(19)。

5.4. 民が書き表したかったものとは何か

ハングルが一義的に漢字音の表記のために作られた文字体系であるとはいえ，それが朝鮮語を表記するための文字であったことは，紛れもない事実である。しかし，中世の朝鮮人が現代人と同様の豊かな文字生活を送っていたわけではないのだから，中世の朝鮮の一般民衆が現代人のように日常生活で文字を読み書きすることを念頭にこの文字が作られたのではないことは，容易に想像がつく。では，世宗序に言われている「民が心うちを書き表せない」ものとは何か。

1443年12月にハングルが完成した3ヶ月後の1444年2月に，崔万理が世宗に提出した上疏文の中で，胥吏が獄中調書に用いる吏読に代えてハングルを用いることの是非が論じられている。民の読めない漢字を用いて調書が作成されることで冤罪が生じるため，それを防ぐために調書をハングルで取って民の発言をそのまま文字化し，民にこの文字を学ばせることでそのような不正調書をなくそうと，世宗は考えたようである。また，1446年に出版される解例本の鄭麟趾序でも，吏読の不便さについて論じており，吏読に代えてハングルを用いることは，１つの大きな論点であったようである。「民が心うちを書き表せない」とは，そのような行政上の実用的な目的を念頭に入れていたことがうかがわれる。

6. おわりに

ハングルの誕生とその意義を正しく知ろうと思ったら，文献を正しく読み，歴史事実を丹念に調べ，当時の人々の知的な営み――言語的な側面のみならず，東洋思想的な側面も含めて――をありのまま見る必要がある。そのように確かな視点で見てはじめて，この文字の価値を等身大で知ることができるのである。

上に見てきたように，ハングルは当時の知識人が当時の言語音分析の学問である中国音韻学を駆使し，国是である朱子学の理想にのっとって作った文字である。それは漢字文化に深く根差したところに生まれ，そして言うなれば漢字文化を極めた先にできた文字であ

(19) 一部の書籍には，このような１文字１音節の「立体的」なシステムが完成されたアルファベットの姿であり，西方から伝わったアルファベットは子音文字である上に線状に文字を羅列するので不完全なシステムであるかのように言うが，このような言説は極めて的外れと言わざるをえない。ハングルの「立体的」構造が表音システムの発展形として考案されたものでないことは本章の通りである。また，アルファベットが子音文字であるかのようにも言うが，子音字しか持たないウイグル文字の子音字のいくつかを母音字に転用してモンゴル文字が作られた時点ですでに子音文字ではないし，チベット文字を基に作られたパスパ文字が子音字と対等な母音字を擁しているという点で子音文字ではない。さらには，同様に子音字しか持たないフェニキア文字を，ギリシャ人がいくつかの子音字を母音字として転用してギリシャ文字を作ったのは紀元前である。

るといってよいであろう。ハングルを作った世宗も，それに反対した臣下も，目指すところはおそらく大きく異なるものではなく，ただその表現方法が少々異なっていただけであるというのが実態であるのが浮かびあがる。

当時の知を駆使して緻密に作り上げられたハングルは，単に文字であるというだけでなく，その背後にある朝鮮半島の伝統文化をも感じさせてくれる。そのような意味においても，ハングルは我々をさらに楽しい世界へと導いてくれるといえよう。

主要参考文献

姜信沆(1987;2007[7])『수정증보 훈민정음연구（修正増補訓民正音研究）』，성균관대학교출판부（成均館大学校出版部）

国立中央博物館(2000)『겨레의 글 한글（民族の文字ハングル）』，신아기획（新亜企画）

金完鎭(1980)『鄕歌解讀法研究』，서울大學校出版部（ソウル大学校出版部）

南豊鉉(1999)『口訣研究』，태학사（太学社）

南豊鉉(2000)『吏讀研究』，태학사（太学社）

박종국[朴チョングク](2007)『훈민정음종합연구(訓民正音総合研究)』，세종학연구원（世宗学研究院）

申昌淳(2003;2007)『國語近代表記法의(の) 展開』，태학사（太学社）

安秉禧(2007)『訓民正音研究』，서울대학교출판부（ソウル大学校出版部）

李覲洙(1979)『朝鮮朝의(の) 語文政策 研究』，弘益大學校出版部

李成九(1985/1991)『訓民正音研究』，東文社

鄭光(2015)『한글의 발명（ハングルの発明）』，김영사（キムヨン社）

河野六郎(1955;1979)「朝鮮語」，『河野六郎著作集１』，平凡社

河野六郎(1994)『文字論』，三省堂

志部昭平(1990)『諺解三綱行實圖研究』，全２冊，汲古書院

趙義成訳注(2010)『訓民正音』，東洋文庫第800巻，平凡社

中村完(1995)『論文選集 訓民正音の世界』，仙台：創栄出版

福井玲(2013)『韓国語音韻史の探求』，三省堂

バード著，時岡敬子訳(1998)『朝鮮紀行』，講談社学術文庫（Bird, Isabella, *Korea And Her Neighbours*, 1905の日本語訳）